

令和3年度第2回主幹教諭研修(任用2年目小・中)

# 特別支援教育の理念を大切にした 児童生徒理解と支援

鳴門教育大学大学院 大谷博俊

講義で提示するスライド・データ・動画等は、一部であっても転記・転載、複製、配付、SNSへの投稿、印刷等は固く禁じます。また、著作権の関係で、講義スライドの撮影はお断りします。

資料等への問い合わせは、四国地域教職アライアンス鳴門教育大学センターにしてください。

# 特別支援教育

“自立”と“社会参加”

# 教育段階における 中等教育の意義

中学校（中等教育学校の前期）  
～義務教育～

高等学校（中等教育学校の後期）

# 高等教育における 障がいのある学生

# 発達障がい・高機能自閉症等(診断書有)

申し出者は母親。本人が自分の特性について、あまり理解していない。コミュニケーション能力が低く、なかなか自分から話ができないので、就職できないのではないかと不安である。就労に向けて、何かできることはないか。サポートしてくれる機関等はないか。

学生相談室ができる支援として、「定期的な面談」、「特性理解のサポート」、「コミュニケーションの練習」、「関係機関との連携」等を提案。また、利用できそうな関係機関の紹介をし、どの機関に繋げていくかを一緒に考えた(学生相談室 キャンパスソーシャルワーカー(CSW))。

初回面談では本人の困り感が全く感じられず、就労に対する意欲もなかった。しかし、面談を続けるうちに具体的な課題が見つかり、就労に向けての意欲が感じられるようになった。

# 発達障がい・AD/HD（診断書無）

申し出者は本人。最初は申し出はなく、落ち着きのない様子があったのでカウンセラーが声をかけ不定期に面談を行なっていく、その中で申し出が具体的になっていった。実習の授業(ゼミ)で先生とコミュニケーションが取れない。就職に向けて、どんな仕事をしたいのか分からない。

ゼミの担当教員と話し合い、実習内容を変更してもらった。就職課と連携し、就職活動を進めていくサポートをしてもらった。カウンセリングでは心理検査を行ない、本人に長所と短所を伝え、本人の興味と合わせてどのような仕事をしたいか、どのような仕事だとできるかといったことを話し合っていた(学生相談室カウンセラー)。

状況が整理され、サポート体制が整っていく中で本人はだいぶ落ち着いて話をするようになった。

# 就職活動における 障がいのある学生の 理解と支援

1. 働く自信がない
2. 働きたくない、就職活動をしたくない
3. 自主的に就職活動を進められない
4. 一度に多くの会社にエントリーしたり、学業や研究をしながら就職活動できない
5. どんな仕事についてよいか分からない
6. 第一志望以外のところに応募できない
7. 志望動機の文章が書けなかったり、面接でコメントしたりできない
8. 面接でうまく振る舞えない
9. 自分の特性にあった志望先を選べない、変更できない
10. 不採用結果や面接官の言葉に傷つき、立ち直りに時間がかかる

# 職業生活への移行には 総合的な支援が必要

教育的支援

職業的支援

医学的支援

社会的支援

…自立活動・キャリア教育

**自立活動の目標は「個々の児童生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培うこと」である。**

自己肯定感

競争的自己肯定感

共感的自己肯定感

高垣(2004)生きることと自己肯定感を基に作成

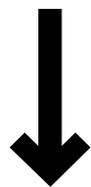
**一般就労**

**社会参加の“かたち”**

**一般求職者の求人**

**障がい者の求人**

**障害者の権利条約**



**障害者の雇用の  
促進等に関する法律**

# 雇用者に対する合理的配慮

**・・・労働者の募集及び採用に当たり障がい者からの申出により当該障がい者の障がいの特性に配慮した必要な措置を講じなければならず、・・・**

**「申し出る」ための自己の理解と提案**

**職場の理解を得る**